

新人の活躍に期待

三年男子	兩代表欠員
二年女子	

選舉內容複雜

昭和二十五年度修明自治会総選挙は、過去半年間の修明自治会に對する激しい當批判の中に去る九月十八日晝を明けたが、立候補は低額の一本紙第十四号並びに同号外に於て既報の如く立候補届出締切時刻に於ても一名の届出もなく、締切を証明せようやく六名(届出人員九名、うち三名辞退)によつて選挙課が行われることになつたが、各候補に職掌は定まらず、同日立会演説開始す前届出を白紙で遽返して同時再選挙という過去に類例なき緊張空気のうちに演説会が開始され、ようやく選挙熱は向上し、一回の立会演説の後、同二千日本校分校同時投票を行つた。右により会長以下四役職の決定を見たが、学年代表選挙も各学年共候補低額で特に三年男子、二年女子では唯一の候補者が共に信任投票で合格となり、関係者並びに遊藝管理委員では串巻を喜調した感状報を授けたが結局、執行委員二名欠員のまま新自治会は決定と決定した。

選挙管理委員会は委員長を決定して正式発足を行い、今般は九月八日、同十一日選挙公示を行ったが立候補の意欲が乏しく、補選出揃ひ時分の同十五日午後三時に於いて、天木を以て、名も出揃ひもなく、委員は延期を決定、会長渡邊、副会長長道、書記河口、会計井の合計六候補の氏名を見たが、翌十六日選挙、四

執行委員氏名	會長	副會長	書記	會計	三年代表	二年代表	一年代表
北原淳行	上野亮子	河口好隆	石井正純	上村久一	澁谷和一	佐橋德雄	

新聞週間と學園新聞

「新聞は民主社会の安全保障」をスローガンに掲げ、新聞の自由と公正を強調する第三回新聞週間では去る十月一日より一週間舉行され、十数年間の歴史を振り返り、この新聞週間に呼應して全國アメリカでこの週間を意氣づける多様なプログラムがくりひろげられたが、この新聞週間の愈勵とされる意義については社会新聞のみならず、学園新聞にも直接に、間接に、あらゆる報道機関、出版機関に於ける根本的原则であることはプレス・コードにも商うたわれていて、ごくいうまでもない問題で、社会新聞に於いては戰時中にける弾圧のために、その新聞の道使命が集し得なかつたこととほめない事實ではあつたが、戦後が如き事件も無かつたことは断言でき、総司令部新聞課長であるボナン佐もまた如く日本軍の重要な地位を占めて來る。

校発足と共に昭和二十三年七月創ない。しかるに本新聞は社会新聞ない批判となり、攻撃となり刊以來年第十五号を数えるが、聞でもなく、また商業新聞でない。自己の行動を顧みずしての言論が新聞に反映し、新聞の批判を心に正しい公衆の批判に判決されるべきなのである。学園新聞に於ける公衆は生徒であり善良なる自治員でなくてはならない。要報報道し、理性の中へ秩序を打ちながら自由と民主主義を擁護する公衆の新聞である。そこに新聞と公衆の間に新聞・生徒と相に密な縦横の連絡と協力と相の理解が絕對に必要なものである。このことは新聞の欠けから

は現存のところ新聞、医研、生物
科学、写真、書道、絵画、華道の
はハクラーフで、講堂に於ける演劇会
はハクラーフ、E.S.S.、家庭科
クラブ、全学連選抜の団体が参
加その他音楽会の演劇クラブ、
スウィングクラブの出席がほぼ確
定して多様なプログラムを予定
している。尚記忘れるが、昨年の
間締結することに決した、
一方財政方面は昨年のT.A.会員
一名につき百円寄附を年額的一名
が利用出来なかつたことは幾
であるが、今回の文化祭は学
で行われるため幾分楽観は小
くなることは否めないであら
うが、決してお祭り騒ぎでなく
等学校の文化の祭典であるこ
を自覚してほしい。あくまで
文化國家たらんとする國際的
識が必須であり、その意味に
いても私は文化祭の式典に國
「君が代」を歌いたいと思つ
ている。

急校う高もと燃て
 (土) 本校に於いて行われ、厳密な試験、口答試験の傍同入學許可
 猪表があり、三年生(名)うち一
 等、その位同試験、行なはれた
 び、後任には風紀部西元議員(一
 〇七)が就任する模様である。

言つてゐる。言つたのであるが、こんな時に社會人として、公民としての義務を果すのが當然ではなかつたか。前期自治會學生部長は殆ど何の汚點も残さなかつたからこゝで、一蹶不振を師つてはなかつた。全生徒徒を削におき「亦だ」「黒れた」と互いに顔色を變えてまで論争するのが我々の進まねばならぬ道であらうか。ここに一言期目治会に言葉を呈したい。

祭典へ急遽三回

体育祭 22 日
文化祭 28 29 日

併せて後任には上田議員が内定してゐたが、十八日に幸而や腐生を拒否したため、同日朝礼時に緊急議會が開かれ、前副委員長、堤倉吉長が推薦されて、新委員長は修明自治会の最大學業である体育一國會議員を第一政黨に開使してゐる。この間戦戰々々層學校では自治会の策定に随行して生徒の自覺的發展として生れ來つた学園新聞もここに四年、本校に於いても高岡つべき「大資料と偽さねばならざる原則」ではあるが、或いは學校一個人に進じる問題なのである。

當局に或は自治会にクラブに批判しかるに生徒間の或は學校への諸弊が物質的なまきりにあつて對して、公衆は斷反骨の判にめざぬのである。この公衆主權の下すられ組織が漸

學園の明朗化

北
当選の感想と

て云ふ事はな
い。筈だつて
文化寮、体育
寮の事は議員
と相談し、内容の充実に物をし
て、フアイヤーストームは私個
人の方からなして貰つておられ
た事を、今に再渡閣下に望み願
ひの良きと断ります。

人生への發見

河口書記談

健全財政確立

石井會計
別にこれと云つて感想はない

会長は近藤さんにて

家庭クラブ役員決定

樂子さんが当選したに過ぎなかつた。
近藤會長談　人に云ふやう學ながら、能動的には物事をして行かない程であるから會長と云ふ下である。

TA会館の自作
縮切 十月十六日(月)

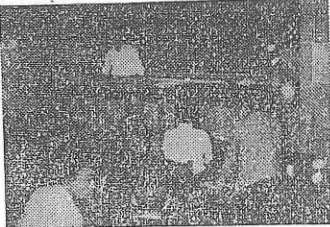
第四回記念文藝集

議會記者席

部会決定で一時間

きる九月二十九日、くなら二年生」と言つた工合で「新旧顧問事務員並に第一回臨急議案」を開議。折からの試験にもかかわらず出席率は高率を示した。事務引継が終ると新会長より体育、文化の團奏典に「つき」最つとも新幹な團奏典を行いたい」と所信を述べ、引継について自治会支部会のメンバーの決意に接した。然し何分にも二年生は要領等でないそがしい爲、あつて各部会部長の席を敬遠し、成るべく

議 會 記 者 席



部会決定で一時間

学年代表を中心にして決定。その
内三年一人は抽せんを入れて二年
生のみは各自の希望を述べて随時
に決定し、中望の嵐嶽を充分に見
せた。こゝでもめ抜いた部会メン
バーも決定を見、その後文化・体
育・音楽準備委員決定となつたが、も
う終り頃になると議会の空気がゆ
るみ出し、正午近くになれば議員
も人間であるといふことの証明の
機にしきりに空気をうつつえたり
していたが、つやと一時半になり
つた。然し今日の議場は教室
はさうも騒が騒が過ぎるべからず、常
定議場十三教室にくらべれば議場
としての緊張を欠く様子であつた

自治會會計前期決算報告

	円 銭
収入合計	330,074.74
前年度繰越金	13,696.54
自治会入会金	30,500.00
自治会費	183,800.00
P T A 補助費	72,000.00
アイスキャンデー 利益金	18,243.20
夏帽子賣上金	1,200.00
立替利益金	10,535.00
支出合計	295,978.09
本 部 費	21,183.00
運動クラブ	228,365.00
文化クラブ	33830.00
校章立替金	12,600.00
差引残高	34,096.74

針の穴

秋季講習
 12日から
 一年生の入試を控へまた、二年以
 の学力向上の目途でもつて学校
 当局では来る十月三十一日よ
 一月程前、ツエーン嬢という筋骨
 たくましい女性が蘭四一帶を腹に
 かけ罷り廻つたが、人の胸も六十
 五百年たぬ四十日足らずの今日で
 は最早大半の人がこの學を忘れた
 といふ。然し聖學高女ではな

体育祭に制定式か

校裁停置の的であつた校風の制定問題が、九月中旬より学校当局並にPTA間でもよく具体化し、元岡部野高等女学々長の染め回覧談話会に於いて各部委メンバー自治では、九月十九日第一回緊急議会に於いて各部委メンバー自治と併せて、
自治部は、九月十九日第一回緊急議会に於いて各部委メンバー自治と併せて、

幸い我々は校舎も無事だし罹災した生徒少かつた▼その爲か前期自治部幹部の間ではいつこの間ま

都方面に染めかえ依頼中であるの

で、遅くとも来る十月二十一日の
期同体育祭には全校の前・披露
され制式が奉行される模様であ
る。

風紀部長

澤田 道雄
菅野 龍太
集會 上野

て論争していた▼我々はその様な
學はかりに陥落すべきであつたろ
うか。いよいよまた多くのせねば
ならぬ仕事があつたはずだ▼聞け

轉入生十三名

本年秋設け、翌年三月三十一日以前に卒業せしむるものとして、本校に於いて行われ、厳密な試験、口答試問の後同日入塾許可があり、三年生三名のうち一

その後同業員より辭意があつたので、後任は風紀部西元議員（二三ノ七）が副座を擔様である。

と聞く。阿部は世襲の地位を以て、嘗て職で公民がこんな時に社會人として、公民としての義務を果すが当然ではなかつたか。即期自治會主席部は殆んど何の汚染も

修學旅行終る

本校最初の共学学年の卒業生を起し、毎日間隔につて、附随教員九名に現行一年生の修学旅行は、学校當局生徒二百余名が参加して舉行され、生徒旅行委員として舊大塚當局十月五日二十時大塚駅発の急行車に乗られ、第一期考査終了後、一課最後を前にほしがつた。生徒生徒を前におき、亦「黒」と互いに顔色を交はせてまだ「黒」と互ひの進まねばならぬ進んであるうかゞことに「言前期目治会に苦言を呈したとい。

